

AO合格者インタビュー

見米恵理子さん (池袋校)

慶應義塾大学文学部

(出身高校：跡見学園高等学校)

現在、慶應義塾大学文学部一年生の見米恵理子さん。慶應義塾大学 AO 入試という超難関受験を、特技のダンスと共に乗り切った彼女。トフルゼミナールでの経験、AO 対策、そして現在の大学生活について話をうかがった。



■受験対策が始まるまではどんな学生でしたか？

トフルゼミナールに入るまではダンスに没頭した学生生活を送っていました。もともとバレエとチアリーダーディングを習っていて、その影響で中学からはダンス部でモダンジャズをやっていました。英語はもともと好きだったのですが、特に英検とかトフルの資格を持っていたわけでもなくて。トフルゼミナールの学生は、海外経験多い方が結構多いんですけど、私は帰国子女でもなくて、留学経験とかもなかったんです。

■トフルゼミナールを知ったきっかけはなんですか？

トフルを始めて知ったのは高校2年生の時、学校の先輩がきっかけでした。もともと英語を武器に受験しようと思っていた、学校の先生に相談したんですね。そしたら、先生が、当時トフルゼミナールに通っていた先輩を紹介してくれました。先輩から、「すごい英語が強いよ」って教えてもらって。それをきっかけに「まずは、体験しに行ってみよう」っていうのが始まりでした。

■体験クラスでの印象はどうでしたか？

あまりのレベルの高さに、ビックリしました。難しいクラスということがわかって体験授業を受けてみたものの、正直、自分自身とのレベルの違いに、ちょっと落ち込んだことを覚えています。その授業を担当していた原先生の授業スタイルがとても印象的で、学校での英語授業とはまったく違うものでした。うまく説明できないんですけど、カジュアルな授業スタイルで、とにかくとてもわかりやすいんです。それに惹かれて、「私もここで頑張ろう」って思いました。少人数制っていう授業スタイルも私には合っていると思いましたね。

■担当のカウンセラーさんには進路相談はしましたか？

私を担当してくれたカウンセラーさんは池袋校の山根さんという方で、山根さんの存在が、私の進路の幅を大きく広げてくれました。と言うのも、私にとって慶應って、キラキラしていて、本当に憧れだったんです。でも、手の届かない遠い存在というか…。合格するのは絶対無理だと思っていました。両親ともじっくり話をして、ワンランク低いレベルの大学を狙うつもりでいました。なので、慶應はオープンキャンパスにも行かなかったんです。でも、カウンセラーの山根さんから「見米さんなら、早稲田慶應レベルも狙えるよ」って言われて、私も頑張ってみようかなって、思うようになりました。

トフルゼミナール

■カウンセラーさんとはどんな受験対策をしましたか？

高校2年の時からトフルゼミナールに通っていたので、英語をメインにいろいろな授業を取っていました。高校3年の夏に、いよいよ志望校を決める時に、カウンセラーの方には、一緒に対策を練ってもらい、これから受講すべき志望校専門の授業についていろいろ考えてくれました。

それまでは、「将来は英語を使った仕事をしたい」という漠然とした考えだけで、早稲田大学の国際教養対策の英語を学んでいたんです。けれど、カウンセラーさんに、「早稲田の国際教養のAO受験と慶應のAO受験対策はスタイルがまったく違うから、どっちかを選んだ方がいい」とアドバイスをいただいて、悩んだ結果、ずっと憧れだった慶應を受験しようって決意しました。大学や学部の特徴を考慮した、細かい対策は、自分だけではわからないことが多いので、とっても助かりました。

最終的に慶應の文学部を第一志望に決めAO対策と受験対策を軸に、それに似ている受験対策で受験できる第2、第3志望を決めました。



■受験対策に切り替えてから、そのような授業を取りましたか？

私の受験した慶應の文学部の一般受験は、英語と日本史と国語だったので、その授業をメインに取りました。AOに関しては小論文だけだったのですが、カウンセラーさんと相談をして、AO入試がダメだったときのために英語と日本史の授業はちゃんと取りました。

もともとカウンセラーさんには慶應のAO入試はとても難しい上に、合格枠もそんなに多くないと言われていたので、一般入試についても、常に意識していました。AO入試での合格は誰も保証してくれないし、受験でギャンブルしたくなかったので。

実際、英語も日本史もAO入試にはなかったのですが、AO入試対策にもなったと感じています。いろいろな時事ネタを頭に入れるのに、日本史や英語や日本語の内容は実はとても役立ったりして。逆に小論文の問題を解く事で英語や国語の読解力も上がったんです。だからトフルでの受験対策は総合的にとても役立ったと思います。一般にはない小論文対策も実際は時間の浪費ではなくて仮にAOで合格できなかったとしても良い勉強になっていたと思いますし、一般受験の対策としてもとても為になる授業でした。どちらの対策もきちんとやっておいたことが、心の余裕にもつながったと思いますし、本当に良かったです。

トフルゼミナール

■AO 対策は小論文で合否が決まりますが、どんな対策をしましたか？

とにかくいろんな過去問を解き続けました。倫理学や社会学、慶應の小論文対策から他の大学の小論文の対策も積極的に行いました。あと気をつけていたのは、常に、時事問題や新聞の記事を常にノートに取る様にしていました。人間力が問われるので常にいろいろな事柄に対して自分の意見を持っているように心がけていましたね。ただ単純に受験対策をするという訳ではなく、自分の人間力そのものを鍛えるというトフルゼミナールの授業スタイルは、現在の大学で授業でも大変役立っています。

■先生やお友達とはどんな関係を築いていましたか？

私の感じた印象ですけど、高校3年生の受験勉強って勉強詰めでストレスが溜まるものだと思っていたんです。けれど実際私はそんな事なくて、仲間も良い意味でライバルとして一緒に頑張りました。皆で笑って、泣いたりして。本当にみんなで一緒に頑張って勉強して、合格しようって思いが強かったんです。先生も少人数なので親身に教えてくれて、グループディスカッションとかもとても新鮮な授業スタイルでトフルゼミナールって全体的にアットホームな雰囲気でしたね。

■本番の小論文は対策通りのものが出ましたか？

残念ながら私の受験した年の慶應の小論文は倫理学系の内容で、対策してものではなかったんです。だから試験が始まった直後は正直慌てましたが、慶應文学部のAO小論文は幅がとても広いと聞いていたので、別の大学の小論文対策も積極的にやっていたんです。おかげで、別の対策でやった似た問題を思い出しパニックにならず落ち着いて出来ました。

■本番では緊張しましたか？

それがまったくっていいほど緊張しなかったんです。前日は結構緊張したのですが、もう当日はもうやるしかないって自然に思えました。むしろ両親の方が緊張していましたね。小論文の対策も出来る限りやったし、もし落ちても私は絶対に一般で受かるっていう自信があったんです。そんな風に思えたのは、カウンセラーさんとしっかり対策を練った事や、授業での経験に絶対的な自信があったから。だって私が取っていた授業って受験レベルの英語よりも難しいものだったんです。予習、復習は大変で、授業後はいつも落ち込みましたけど、そこまでやればいやでも自信に繋がります。

トフルゼミナール

■トフルゼミナールで勉強して良かったですか？

自分の第一志望に受かったのももちろんよかったと思っています。そして何よりトフルゼミナールで勉強したことが今の大学生活にすごく役立っていて、例えば、論文の書き方だったり、授業で習った問題や事柄に対する考え方もトフルで基礎を身につけたから今はとてもスムーズに進んでいます。

あとトフルと一緒に戦った友達とも未だに連絡を取ってたまに会って遊んでいます。なによりアットホームな環境だったからこそ、あの厳しい勉強も乗り越えられたのだと思いますね。本当に感謝しています。

■大学生活は楽しんでますか？

毎日とても充実した生活を送っています。今は新しい事に挑戦したくてアカペラサークルに入りました。元々の慶応のキラキラしていたイメージはもうあまりなくてみんな真面目で落ち着いたイメージに変わりました。自分が一番憧れていた学校に合格できて本当に幸せです。

受験生へのメッセージ

私から言える事は、「あまり気負いすぎない」ということです。長い戦いですし、程よいバランスを取りながら勉強と部活や遊びを両立する事が大事だと思います。



そういう意味でも高校2年くらいから基礎を固めだすことは大事かもしれません。そう言う私自身も、進路を決定して、受験対策を始めたのは、高校3年の夏なんですけどね。その反省も込めて

推薦を狙っている人には一般の対策もちゃんとするってことですかね。推薦はなんの保証もないですから。だからこそカウンセラーさんときちんと対策を立てて、限られた時間の中でいかに自分の可能性を広げるかが大事だと思います。

私自信も慶應文学部の他に早稲田の文学部や青山も候補に入れて勉強していました。

私も憧れだった慶應生になれました。どんな方にもチャンスがあるって思います。憧れを現実のものにするところ、それがトフルゼミナールだと思います。